

# 秀峰

議会だより

第128号

平成23年 6 月定例会

発行日／平成23年 7 月31日

責任者 議会議長 都築正光  
編集 議会広報編集特別委員会  
事務局 大豊町高須231  
電話 0887-72-0450

## 第435回 平成23年 6 月定例会

一般質問

### 近畿ツーリストの よる本町観光事業の 平成22年度の調査報告は



小笠原春行  
議員

本日町長より近畿ツーリストの報告書の配付があったが、年間1千万円の調査費を支払い調査された報告書としては、誠に粗末なものである。



あけぼの会収穫祭

この程度の調査であれば本町の職員でも十分できる企画である。本来、本町の拠点観光施設また先人の伝統文化を生かした観光資源としての可能性についての依頼であると認識しておったが、近畿ツーリストとしての力

一般質問

### 本町公共財産管理は

問 行政の規律について  
答 目的に合った管理をする

小笠原春行議員  
本町には大小種々の公共施設がある。中でも全国有数の地すべり地帯であり、その補強事業は国、県、町を挙げてそれぞれの地域の住民の生命財産を守るため砂防事業がなされ、住民の安心安全が確保されているのは、今更申し上げるまでもないと思うが、そのような現実の中で私がごく最近認識したことが、岩原地区において赤根川河口にある砂防堰堤内に個人が土砂を入れ埋められ、そ

の上に建造物が建てられ個人が使用しているとのことで見えてきた。構造物は撤去されているが元来の堰堤の機能は維持できる状態ではなく下流20〜30メートルの所には民家が2軒有り、堰堤の存在価値が疑われるのが現実である。埋立当時より極近に本町の幹部職員もおり、砂防堰堤の重要性は十分認識があったはずである。なぜ指導、中止ができなかったのか、国の施設だからという甘い考え方からか、

知って知らない振りをしたことは大きな間違いである。施設は国の物でも大豊町民、特にこの地域の住民の生命財産を守るためであり、その職員の人格を疑うところである。この後での質問も全てこのような公共施設の財産管理に対し地域住民が拡大解釈をなし、地域住民間の確執の元である。

そのままに行使し現在に至っているのは不都合である。  
その後ラフティングが吉野川で流行し岩原地域にも業者が入り地域の有志により公民館の一部（保育所の後）をラフティング業者に使用させ地域の活性化を図りたいと申し出があったようである。公民館は個人に貸さないとのこと、地域で平成17年4月に大地の会を設立、町と貸借契約を結びその会員の中に現在の使用者も入っていたようである。

しかしながら大地の会は設立1年後の平成18年3月で解散し、4月1日から現使用者である個人が町と貸借契約を結び現在に至っている。

その間駐車場は保育所当時の状態で使用され、土地所有者の厚意はまったく無視されている。外来者による地域の活性化も大切ではあるが、土着の住民を無視しての行政の在り方は、この地区に關係なく本町の議員とし



岩崎 町長

て放置しておくことが不本意であり、あえて質問するところで、町民を無視した権力の行使は厳に慎むべきであることを申し上げ町長の考えを聞く。

個々の件についてはそれぞれの経過、それに対する対応があるので、公の施設の管理という視点で答える。  
公の施設は住民の施設である。その目的に合った管理をするのは当然であり、今までもそのようなしてきた。  
皆さんの施設として利用し、地主の皆さんそして関係する皆さんのご協力のもとに地域の和が保たれていくということが本来の目的である。新しい取り組みによってその秩序が乱れれば、その原因を捉えて対応すること

一般質問

### 問 大久保集会所の急な改修はなぜか 答 懸案事項の計画であるとともに 財源措置ができたため

小笠原春行議員  
ただ今答弁があったが、外来者による活性化

が必要でも地域住民との輪が保たれることが大切であり、今後は特に注意し問題が起れば町長が先頭に立って解決に当たっていくこと、現在の貸借は本年中に打ち切り、他の場所での営業をお願いしていただくことを提言する。

小笠原春行議員  
町内それぞれの地区が高齢化して住民も生活に不安を感じ生活している。集会所の施設の改善に異議はないが、地区内での計画から実施に至るまで、地区住民に周知されないまま実施されたことにより、地区内で異論が出たものと思われる。そもそも地区からの申請書が1月18日に提出され、町が受け付け、同日県に申請し翌日の1月19日に県の許可を得て、業

者が着工する前日地区民の集会があったと聞く。このことは地区民を無視した行為であり、また本町も財政が厳しいとのこととで日常の生活に支障を来たしている町民も多く町に要求しても何か月もかかり、中にはお金が無いからできないと言われている件も多い中、申請から2日目に500万円以上の事業が現実に実行されていることは、町民感情を逆撫でする以外の何物でもなく、今後町内また

地区においてこのような偏った行政の在り方は、町民の目線で行政を行うという町長の本旨からはずれておると思うが、町長の考えを問う。

岩崎町長

今回の計画については、急に出てきた話ではない。数年前から高齢者を対象にしたミニデイサービスを定期的に開催しており、地域から話がいったもので、皆さんの総意と理解している。財政的な対応が必要であったため懸案事項として考えていたもので、その点についてはご理解願いたい。

小笠原春行議員

今答弁があったが、高齢化が進行する本町では福祉の拠点としてふれあいセンターができており、職員による送迎をして、今こそ施設を活用するべきであることを申し上げておく。